

1 通信教育の概要

1 目的

本通信教育は、主として知的障害のある人が利用する障害者施設・事業所において知的障害児・者の支援・援助にあたる専門職員の養成を行うことを目的としています。

2 受講資格

受講資格は、次のいずれかに該当することが必要です。

- (1) 学校教育法に基づく大学・短期大学卒業者で、人材育成・研修委員会が定める施設・事業ならびに職種で1年以上その業務に従事した者。
- (2) 学校教育法に基づく専修学校の専門課程【修業年限2年以上のものに限る】(専門学校) 卒業者で、人材育成・研修委員会が定める施設・事業ならびに職種で1年以上その業務に従事した者。
- (3) 学校教育法に基づく高等学校卒業者で、人材育成・研修委員会が定める施設・事業ならびに職種で2年以上その業務に従事した者。
- (4) 学校教育法に基づく専修学校の高等課程(高等専修学校) 卒業者で、人材育成・研修委員会が定める施設・事業ならびに職種で2年以上その業務に従事した者。
- (5) 知的障害援助専門員養成通信教育(平成12年度以降)を受講した者で、未修了の者。

※実務経験については、平成30年3月31日現在で定められた年数を満たしていなければなりません。

※人材育成・研修委員会が定める実務経験については、16ページを参照してください。

※非常勤職員は、下記の条件をすべて満たしている場合に実務経験として該当します。

A. 正職員と比べて3/4以上勤務している。

B. 施設長もしくは法人理事長の証明がある者。

3 定員

450名

4 募集期間

平成29年11月1日～平成30年2月末日(定員になり次第締め切り)

5 受講期間

平成30年4月1日～平成31年3月31日

6 受講料

受講料(上記2.受講資格の(1)～(4)に対応) ●会員施設職員 66,000円 一般 69,000円
再受講料(上記2.受講資格の(5)に対応) ●会員施設職員 53,000円 一般 56,000円

※受講料には、テキスト代およびスクーリング受講料が含まれます。

※再受講料には、テキスト代は含まれません(スクーリング受講料は含まれます)。

※一度納入された受講料は返金できませんので注意してください。

2 受講内容等

1 教 科 目

- | | |
|----------------------|----------------|
| ①知的障害者福祉総論 | ⑥知的障害者の医学 |
| ②知的障害者援助技術 | ⑦知的障害者の保健衛生・看護 |
| ③事例研究 | ⑧知的障害者の生活支援 |
| ④知的障害を伴う自閉症スペクトラム（仮） | ⑨障害福祉事業のマネジメント |
| ⑤知的障害者の心理 | ⑩知的障害の併存症（仮） |

※教科④および⑩はテキスト改訂を予定しているため（仮）としています。

2 履修内容

①自宅学習

テキストによる自宅学習とレポート提出により行います。

レポートは、各教科ごとに定められた所定の期日までに全教科を提出し、評価・講評を受けた後に返却されます。

レポートは、1科目につき原稿用紙5枚程度（1800～2000字）となります。

②スクーリング

各教科の講義と試験を行います。

平成31年1月に東京と大阪の2会場で実施いたします。6ページを参照してください。

会場は受講者の居住地等を参考に人材育成・研修委員会にて指定します。ただし、入学後の会場変更は可能です。

また、修了判定を受けるためには全教科目の出席が必要です。欠席の教科目がある場合は修了できません。

再受講について

再受講は30～47期生として受講していた方で、修了判定の結果「未修了」となった方が対象となります。なお、在籍中に履修した科目は無効となるため、すべての科目のレポート提出ならびにスクーリングの出席と試験を受けなければなりません。

再受講料には、テキスト代が含まれていませんので受講時のテキストを使用してください。ただし、希望により最新のテキストを1冊あたり1,000円で購入することができます。

3 修了判定

修了の判定は、レポートの評価、スクーリングの出席および試験の成績により総合的に行います。

●学習計画（予定）

学習期間	学習教科（レポート提出教科）	学習期間	学習教科（レポート提出教科）
4/1～4/10	準備期間	8/11～10/10	⑥知的障害者の医学 ⑦知的障害者の保健衛生・看護 ⑧知的障害者の生活支援
4/11～6/10	①知的障害者福祉総論 ②知的障害者援助技術		
6/11～8/10	③事例研究 ④知的障害を伴う 自閉症スペクトラム（仮） ⑤知的障害者の心理	10/11～12/10	⑨障害福祉事業のマネジメント ⑩知的障害の併存症（仮）

- ・テキスト改訂等により、学習する科目の順序が変更となる場合があります。
- ・レポートの提出期限は、あらかじめ日程が決まっています。
- ・レポートの評価は、各科目担当講師が行います。

●スクーリング実施予定表

東京会場

- ・開催日 平成31年1月18日（金）～20日（日）
- ・会場 TOC有明（東京都江東区）

大阪会場

- ・開催日 平成31年1月12日（土）～14日（月）
- ・会場 大阪国際会議場（大阪市北区）

9:20	11:05	12:35	13:30	15:00	15:15	16:45	16:55	17:25
1日目		教科①	休憩	教科②	休憩	教科③	休憩	試験

9:20	10:50	11:05	12:35	13:30	15:00	15:15	16:45	16:55	17:35
2日目	教科④	休憩	教科⑤	休憩	教科⑥	休憩	教科⑦	休憩	試験

9:20	10:50	11:05	12:35	13:30	15:00	15:10	15:40
3日目	教科⑧	休憩	教科⑨	休憩	教科⑩	休憩	試験

- ・スクーリングの講義は、各科目担当講師が行います。
- ・講師等の事情により、講義科目の順序が入れ代わる場合があります。
- ・会場は受講者の居住地等を参考に人材育成・研修委員会にて指定します。（希望により変更は可能）

●48期生講師一覧（予定）

科目名	講師名
①知的障害者福祉総論	小澤 温 (筑波大学) 谷口 泰司 (関西福祉大学) 本多 徹 (光風園) 矢野 明宏 (武蔵野大学)
②知的障害者援助技術	大澤 邦昭 (旭川福祉専門学校) 河原 雄一 (湘南ゆうき村) 鈴木 良 (琉球大学) 中野 陽子 (和泉短期大学) 樋口 幸雄 (横手通り43番地「庵」)
③事例研究	川口 豊 (第2茨木学園) 佐々木敏宏 (社会福祉法人けやきの郷) 長澤 正樹 (新潟大学)
④知的障害を伴う 自閉症スペクトラム (仮)	小林 信篤 (社会福祉法人やまびこの里) 譲田 和芳 (NPO法人SKIPひらかた) 田熊 立 (千葉県発達障害者支援センターCAS) 中野伊知郎 (社会福祉法人侑愛会) 村上 利男 (社会福祉法人北摂杉の子会)
⑤知的障害者の心理	齊藤 宇開 (たすく株式会社) 佐々木 新 (川崎医療福祉大学) 諏訪 利明 (川崎医療福祉大学) 平野 晋吾 (福山市立大学) 村瀬 精二 (社会福祉法人日野青い鳥福祉会)
⑥知的障害者の医学	大塚 頌子 (旭川荘療育・医療センター) 小沢 浩 (島田療育センターはちおうじ) 片山 雅博 (旭川荘療育・医療センター) 林 優子 (県立広島大学) 原 仁 (社会福祉法人青い鳥) 山磨 康子 (旭川荘療育・医療センター)
⑦知的障害者の保健衛生・看護	江川 文誠 (ソレイユ川崎) 小川ひろの (社会福祉法人翔の会) 鴨下 加代 (県立広島大学) 土路生明美 (県立広島大学) 前田 早苗 (きずな訪問看護ステーション) 吉原 恭子 (きずな訪問看護ステーション)
⑧知的障害者の生活支援	金丸 博一 (社会福祉法人柏学園) 佐藤 繭美 (法政大学) 佐野 和明 (障害者就業・生活支援センターわーくわく) 蓬莱 和裕 (希望の郷) 松永千恵子 (国際医療福祉大学)
⑨障害福祉事業のマネジメント	池谷 修 (沼津のぞみの里) 高橋 智秀 (聖心園) 新妻 登 (はまなす荘)
⑩知的障害の併存症 (仮)	池上 陽子 (島田療育センター) 鈴木眞知子 (藤女子大学) 野村 万季 (相模原市立陽光園) 宮崎 明美 (児童発達支援センターみどり学園)

※科目④および⑩はテキスト改訂を予定しているため (仮) としています。

※50音順

修了生から一言

広島県／友和の里 三村 明美

私が本講座の受講を決めたのは、利用者の笑顔をもっと見られるように自信を持って支援を行いたいという気持ちからでした。学習を進めるにつれ、以前の私は知的障害者についての知識や援助技術の専門性に欠けた行き当たりばったりの支援が多かったことを痛感しました。専門職と言われるからには、理論に裏付けされた根拠のある支援を行い、支援員としての質の向上を目指さなければなりません。その点で、本講座のテキスト構成は、知的障害者についての専門知識を幅広く学ぶことができる充実した内容でした。

10科目のレポート作成は、受講開始時点で実務経験が1年の私には容易ではありませんでした。特に実体験や実践事例をあげ、自分の考えを述べる課題は難しく、経験不足を補うべく職場の先輩に経験談を聞いたり意見を求めたりしました。ただし、難しく感じたのは経験不足だけではなく、日々の業務を流れに任せて行い、考えることを怠っていたのも理由の一つであることに気付きました。その後、テキストを読み進める際には、利用者とテキスト内容を結びつけながら興味を深めました。また、レポート課題を頭に置いて支援をするように心掛けることで、それまであまり意識してこなかった利用者の特性、気持ち、周辺環境、家族の思いなどについて自然と考えるようになっていきました。

スクーリングでは、さまざまな業種の受講生とペアワークやグループワークを通じて興味深いエピソードや考え方を聞いたことはとても有意義な経験でした。ただし、必ずしもテスト問題に沿った講義内容ではないので、合格点を獲得する為には、事前にテキストを読み勉強し、正解できるよう準備しておくことが大切です。

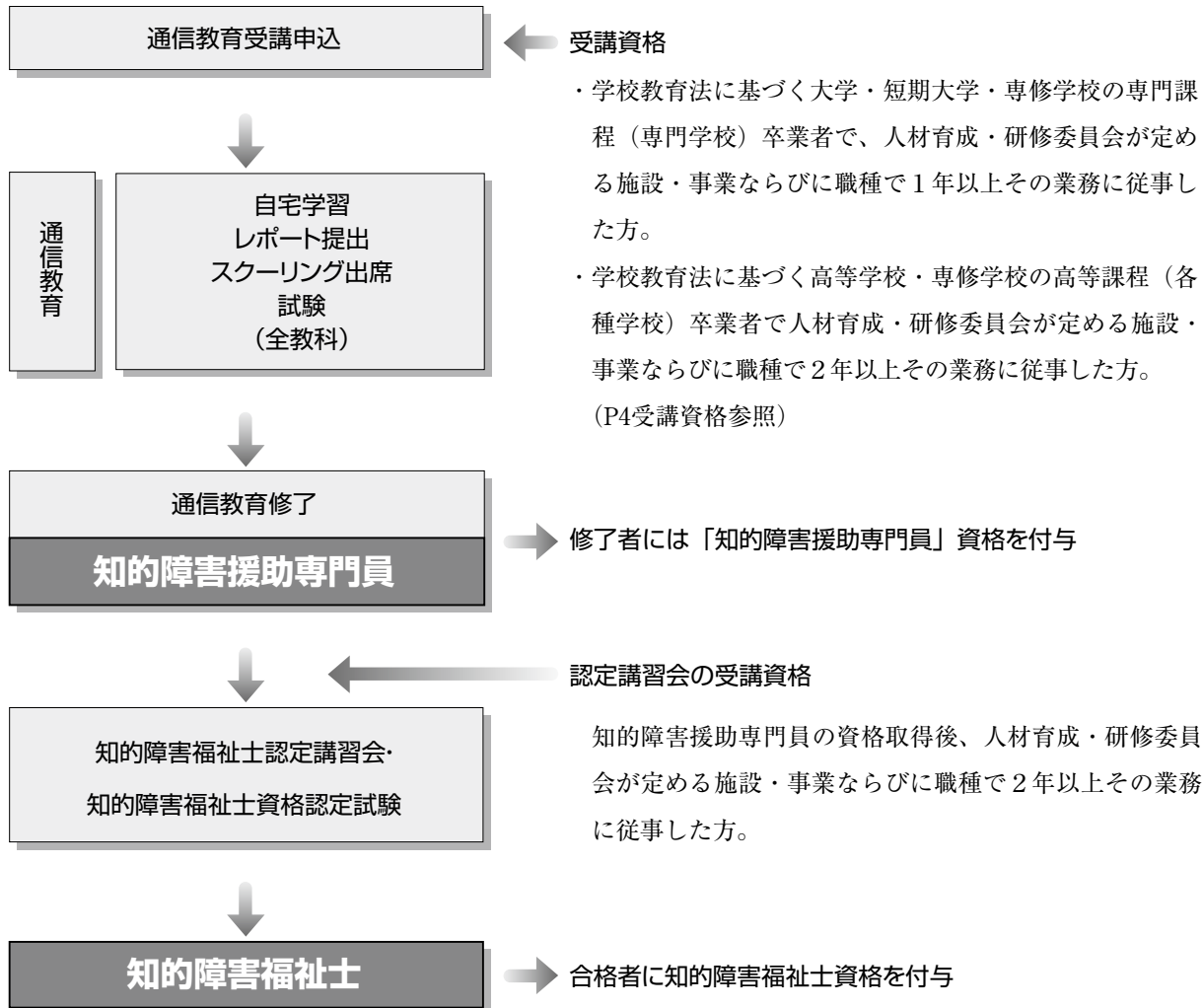
また、スクーリングの醍醐味は、同じ志を持って集まった仲間との出会いです。私の場合、スクーリング会場外に設置されたホワイトボードへの書き込みをきっかけにして出会った仲間と意気投合し、スクーリング2日目の夜食事に行きました。他愛もない話から支援に関する真剣な話しまで、さまざまな会話の中で情報交換することができ、新たな気持ちで業務に臨む活力となりました。

仕事をしながら10科目のレポート提出を完了することは大変なことではありますが、学んだ知識は支援の質の向上に必ずつながります。最後まで諦めずがんばってください。

3 資格の付与について

本通信教育修了者には「知的障害援助専門員」の資格が与えられます。

●資格認定への過程



知的障害援助専門員とは

知的障害のある人が利用する障害者施設・事業所において知的障害児・者の支援・援助にあたる専門職員として本協会が認定する資格。

知的障害福祉士とは

知的障害のある人が利用する障害者施設・事業所において知的障害児・者の支援・援助に係る計画の策定・調整等とともに、支援・援助にあたる職員に対して助言・指導等を行う専門職員として本協会が認定する資格。

4 申込手続き

1 募集期間

平成29年11月1日～平成30年2月末日（定員になり次第締め切り）

2 提出書類

- ①受講申込書又は再受講申込書（所定用紙）
- ②実務経験証明書又は非常勤（臨時）職員用実務経験証明書（所定用紙）
※再受講の方は提出の必要はありません
- ③承諾書（所定用紙）
- ④受講許可通知返信用封筒（定型郵便サイズの封筒（長3）に82円切手を貼り、ご自身の住所・氏名を記入してください）
- ⑤証明写真（縦4cm×横3cm）2枚

2 提出方法

所定の提出書類に必要事項を記入し、A4用紙が入る封筒(角2)に必要な分の切手を貼付し郵送してください。

4 受講の決定

提出書類の審査を行い、受講資格を満たしている方に受講手続き（受講許可証および払込取扱票）のご案内をします。受講料の納付をもって受講の決定となります。

5 提出書類の記入要領

1 受講申込書

- ①受講申込書又は再受講申込書記入例（12頁・13頁）を参考にして必要事項をもれなく記入してください。氏名の欄に必ず押印してください。
- ②最終学歴は卒業した学校名、学部・学科名、卒業年月まで正確に記入してください。
- ③勤務先は現在の勤務先を記入してください。
- ④施設・事業の種類、および職種は16頁の表を参考にして記入してください。なお、コードは17～18頁コード表を参照のうえ記入してください。

2 実務経験証明書

- ①受講申込時に必要な実務経験を実務経験証明書又は非常勤（臨時）職員用実務経験証明書に記入してください（14頁・15頁参照）。
- ②施設・事業の種類、および職種は16頁の表を参考にして記入してください。
- ③事業所の異動等により、実務経験証明書が複数になる場合には、予備として付けている証明書に記入してください。
- ④実務経験証明書又は非常勤（臨時）職員用実務経験証明書を見込みとして提出された方は、4月以降に証明書を再度提出していただきます。
- ⑤再受講の方は、実務経験証明書又は非常勤（臨時）職員用実務経験証明書の提出は必要ありません。

3 承諾書

- ①通信教育を受講するにあたり、承諾書（31頁）を提出していただきます。
- ②承諾書の記載内容を確認したうえで、日付・住所・氏名の記入および押印をし、提出してください。

4 受講許可通知返信用封筒

返信用封筒（定型郵便サイズ【長3】）に82円切手を貼り、返送先の郵便番号、住所、氏名を記入してください。提出書類を福祉協会のホームページよりダウンロードした場合は、返信用封筒（定型郵便サイズ【長3】）をご用意ください。

5 証明写真

縦4cm×横3cmの証明写真を2枚用意してください。（スナップ写真不可）

- ①1枚は受講申込書又は再受講申込書の所定の位置に貼付してください。
- ②残りの1枚は裏面に都道府県名・氏名を記入し同封してください。（受講証用）